資料１－１

八戸市美術館　開館後の状況について

１．開館記念「ギフト、ギフト、」について

（１）会期

令和３年 11 月３日（水祝）～令和４年２月 20 日（日）

※令和４年１月 26 日～２月 20 日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

※令和４年２月２日～２月 20 日の間は事前申込制・１日の人数を最大 60 人までに限定して観覧対応した。

（２）観覧者数

13,089 人

※12 月 12 日（日）に、観覧者数 8,888 人達成記念セレモニーを開催した。

２．「持続するモノガタリ－語る・繋がる・育む　八戸市美術館コレクションから」について

（１）会期

令和４年３月 19 日（土）～６月６日（月）

（２）観覧者数

3,246 人（5/9 時点）

３．コレクションラボ 001「舟越保武展　静謐の中に佇む」について

（１）会期

令和４年３月 19 日（土）～６月 20 日（月）

（２）観覧者数

3,696 人（5/9 時点）

4．プロジェクトについて

（1）展覧会関連・アートファーマープロジェクト

新美術館の開館を記念して、オープニングイベントや開館記念「ギフト、ギフト、」「持続するモノガタリ」展に関連したプロジェクトのほか、アートファーマープロジェクトを実施した。

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
法霊神楽一斉歯打ち	11/3（水祝）	おがみ神社にて伝承されてきた法霊神楽による一斉歯打ちを披露
キッチンカー出店	11/3（水祝）～ 11/7（日）	美術館前広場に人気のキッチンカーが出店
開館記念「ギフト、ギフト、」 アートファーマープロジェクト 向井山朋子パフォーマンス「gift」	（ワークショップ） 10/2（土）～11/13（土）の間で6回 （公演） 11/14（日）	ピアニスト・美術家の向井山朋子氏と市民参加者がピアノ演奏に合わせたパフォーマンス作品を創作し、公演した （ワークショップ参加者数　14 人） （公演参加者数　98 人）
大学資産を活用したアートの学び事業「わたしたちの八戸アート」 ワークショップ	第1回：11/20（土） 第2回：12/4（土） 第3回：12/18（土）	アート思考の第一人者である若宮和男氏（八戸市出身）と、八戸学院大学の玉樹真一郎特任教授を講師に迎え、自分なりにアートを捉え、楽しむ方法について考えるワークショップを開催 （オンライン開催のみ　各回約 30 人）
開館記念「ギフト、ギフト、」 田附勝トーク＆デコトラミーティング	11/23（火祝）	田附勝氏が撮影した八戸及び近隣地域のデコトラが美術館広場に集合し、田附氏とデコトラドライバーによるトークイベントとデコトラ鑑賞会を開催 （トークイベント参加者数　93 人）
アートファーマープロジェクト 八戸市美術館建築ツアーガイド	（講座） 10/10（日）～11/28（日）の間で4回 （ガイド実践） 12/4（土）、12/5（日）、12/11（土）、12/12（日）	美術館の建物の魅力や特徴をガイドとなる参加者がみんなで一緒に学び、ガイド毎に自分の視点や言葉で語りながら来館者を案内する建築ツアーを実施 （講座参加者数　10 人） （ツアー参加者数　147 人）
青森アートミュージアム5館連携協議会連携事業 「建築にみるこれからの美術館～八戸市美術館の可能性～」 トークイベント	12/12（日）	最近リニューアルオープンした美術館の館長をゲストに迎え、美術館建築を切り口に「これからの美術館」を考え、八戸市美術館の可能性を探るトークイベントを開催（オンライン配信あり） （登壇者：日比野克彦氏、青木淳氏、西澤徹夫氏、浅子佳英氏、五十嵐太郎氏、佐藤慎也館長） （会場参加者数　約 100 人）

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
開館記念「ギフト、ギフト、」 アートファーマープロジェクト かだるアート浮世絵編	第１回：12/19（日） 第２回：1/16（日） 第３回：2/13（日）中止 第４回：3/13（日）延期	八戸クリニック街かどミュージアムの小倉学館長兼学芸員を共創パートナーに迎え、出展作品の浮世絵コレクションを出発点に、浮世絵文化等を参加者が共に学び、語り合いながら、浮世絵をテーマにした自分なりの展覧会を考える。 （参加者数　各回 10 人）
「ギフト、ギフト、」ガイドツアー	1/13（木） ※1/22(土)と 1/27（木）は中止	開館記念「ギフト、ギフト」の展覧会を学芸員と一緒に巡るツアーを開催。
田村友一郎×石倉敏明アーティストトーク「予期せぬギフト」	1/15（土）	「ギフト、ギフト、」参加アーティストの田村友一郎氏と、人類学者の石倉敏明氏をゲストに迎え、出品作品《予期せぬギフト》の制作プロセスや「贈与・ギフト」に関する話を展開。
種探しラボ 01 今、"ギフト"を考える。近内悠太×吉川由美トークイベント	2/12（土） ※オンライン開催	100 年後の八戸を創造する「種」を見つけるプロジェクトとして、教育者・哲学研究者の近内悠太氏と「ギフト、ギフト、」ディレクターの吉川由美氏によるトークイベントを開催。
開館記念「ギフト、ギフト、」 アーティストトーク最終日スペシャル！	2/20（日） ※オンライン開催	会期最終日にオンライン配信によるアーティストトークを開催。 第１部：大澤未来×祭り人トーク 第２部：締めくくりトーク
「持続するモノガタリ」オープニングイベント－zodiac nova,pop-machine ＆ contemporary system　音楽ライブ	3/19（土）	約５年ぶりの八戸市美術館コレクションの展示となる「持続するモノガタリ」の開催を記念して、地元を中心に活躍するデュオユニットのライブを開催。 （参加者数：約 50 人）

※その他、「持続するモノガタリ」展関連プロジェクトは別紙資料に掲載。

法霊神楽一斉歯打ち

キッチンカー出店

向井山朋子パフォーマンス「gift」

デコトラミーティング

建築ツアーガイド

「建築にみるこれからの美術館」トークイベント

「かだるアート浮世絵編」と貸館利用（撮影会）

田村友一郎×石倉敏明アーティストトーク

（２）ゴールデンウィーク企画「ゴールデン・ジャイアント・ウィーク」

ゴールデンウィーク期間に、まだ美術館に来たことがない・美術館に興味がない方をメインターゲットに、来館動機を喚起することを目的とし、ジャイアントルームを中心に様々な企画を実施した。

①実施期間：令和４年４月 29 日（金・祝）～５月８日（日）

②実施内容：

〇ジャイアントルーム企画

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
アートボードゲームで遊ぼう！	第１回：4/29（金祝） 第２回：5/1（日）	アートがテーマのボードゲームで遊べるワークショップを開催。（ディクシット・ジャンクアート） （参加人数：第１回32 人、第２回52 人）
モノガタルのモノガタリ～八戸市美術館スタッフのコレクションから	5/3（火祝）～5/8（日）	手作り人形、レトロゲーム、競馬グッズなど、美術館スタッフの"超"プライベートコレクションを公開。コレクションを通してスタッフの人柄が垣間見える展示。
マステでオリジナル八幡馬をつくろう！	5/4（水祝）	マスキングテープで自由にデザインし、自分だけのオリジナル八幡馬をつくるワークショップを開催。 （協力：㈱八幡馬） （参加人数：30 人）
みんなでお絵かき！デジタルライブペインティング	5/5（木祝）	ペインティングソフトとプロジェクターを使ってジャイアントルームの壁に絵を描いて楽しむワークショップ。 （講師：加藤直礼氏、Ayako Shinohara 氏） （参加人数：61 人）

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
どこでも Park	5/7（土）	小さな公園（Ｐａｒｋ）のジオラマづくりワークショップを開催。 （講師：三浦きよ美氏） （参加人数：32 人）
ラクガキでつくる、ジャイアント迷路！	5/8（日）	ビニールの迷路にラクガキして、ジャイアントルームに巨大迷路をつくるワークショップ。 （講師：東方悠平氏（八戸工業大学講師））

〇スタジオイベント

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
「鮫の神楽」映像上映	4/29（金祝）～5/8（日）	「持続するモノガタリ展」で展示されている「墓獅子舞」をはじめとする「鮫の神楽」の映像を上映。 （協力：八戸市教育委員会）
館長トーク「おもしろい建築の話」	5/1（日）	国内・海外の変わった建築物や面白い使われ方をされている建物などを紹介、建築の魅力を感じることができるトークイベント。 （参加人数：25 人）
打楽器集団 el gesrto 打楽器ライブ＆打楽器体験	5/7（土）	市内を中心に活動する打楽器集団 el gesto による打楽器ライブと、参加者が打楽器に親しめるワークショップと演奏を実施。 （参加人数 32 人）

〇ツアー

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
建築ツアーガイド	4/30（土）	アートファーマーが八戸市美術館の建築の魅力を独自の目線で紹介するツアーを開催。 （参加人数：12 人）

アートボードゲームで遊ぼう

モノガタル人のモノガタリ展

マステでオリジナル八幡馬づくり

デジタルライブペインティング

どこでもＰａｒｋ

ビニールでつくるジャイアント迷路

「鮫の神楽」映像上映

館長トーク

打楽器ライブ＆体験

アートファーマー建築ツアー

３．学校の社会科見学・修学旅行の受け入れについて（令和３年度実績）

開館前から学校の社会科見学や修学旅行の受け入れを行っている。美術館スタッフが館内を案内して回るだけではなく、展示室の作品の前で座って模写するなどの取組も行っている。

項目	受入校数	生徒数	備考
社会科見学	14 校	460 人	市内：10 校 384 人／市外：4 校 76 人
修学旅行	5 校	171 人	全て県内

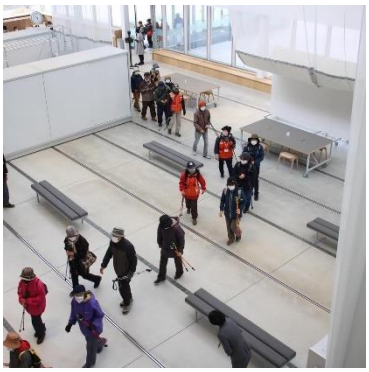
展示室での模写の様子

4．市民利用について

開館記念「ギフト、ギフト、」の会期が終わる２月末から市民による展示（貸館利用）がスタートする予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため県内公共施設の原則臨時休館が決定したことにより２つの展示が中止となったものの、３月 11 日（金）から市民による展示が行われている。

また、ジャイアントルームや広場は開館直後から市民が自由に利用している姿が見受けられ、ノルディックウォークのグループがウォーキングコースに美術館内を組み入れるなど、面白い光景も見られた。

八戸臨泉会書展



ノルディックウォーク

二人展（写真展）ライブ＆トーク

墨縁書展（展示と講演会）

5．メディア露出実績について

開館前から地元紙において特集記事や連載記事を掲載していただいたほか、開館直前・開館後を中心に、美術分野だけではなく、建築・観光・地域情報など、幅広い分野のメディアに取り上げていただいた。また、青森アートミュージアム５館連携協議会による広報活動や、設計者をはじめとする関係者の協力により、新建築（１月号）や美術手帖（２月号)、日曜美術館アートシーン（ＮＨＫ）等、全国的なメディアでも取り上げていただいた。

6．来館者の声と対応状況について

（１）主なご意見

①美術館なのに絵画がない、絵画が見られると思って来たのにがっかりした。(特に有名な西洋絵画や、美術館のコレクションである教育版画を見たいという声が多かった)

(現場での対応)

・美術館のコンセプトや今回の企画の主旨を説明するとともに、次の展覧会は美術館のコレク

ションを活用した展覧会を予定しており、絵画作品が多数みられることを説明。今後も、八戸市美術館では現代アートだけではなく、多彩な作品を展示すると説明した。

（考察）

・八戸市美術館のコンセプトが十分に伝わっていないことが原因と考えられる。従来の美術館をイメージして来館された方にとって、ギャップがあったと思われる。

②観覧料が高い（近隣の美術館や、東京の美術館と比べて高い）。値段の割に作品のボリュームが少ない。

（現場での対応）

・展覧会毎に観覧料が異なり、次の「持続するモノガタリ展」は料金が下がることや、他の美術館と比べても、八戸市が突出して高いわけではないことを説明した。

（考察）

・旧美術館の観覧料が、150 円～500 円（市内 65 歳以上半額）と極端に安く、それと比べて一般 1,300 円（市内 65 歳以上半額）という料金設定は高く感じた可能性がある。

・一方で、「見ごたえがあった」、「モノ・ヒト・コト・時間がミックスした表現は面白かった」、「見ていて楽しい作品が多い」等、評価する声も非常に多く、人によって評価が極端に分かれる展示であったように思う。

③無料駐車場がない。駐車場割引を設けて欲しい。

（現場での対応）

・近隣の民間駐車場をご利用いただくように説明した。

（考察）

・一般来館者用の駐車場がないことはオープン前から告知していたが、来館してから初めて知る方も多かった。美術館の敷地内に一般来館者用の駐車場を設置したり、民間駐車場を利用した方へ美術館が駐車料金を負担することは難しいが、要望が多いことから、対応策を検討することとした。

④監視員が挨拶せず不愛想。展示室を案内・解説して欲しい。

（現場での対応）

・開館当初は、お客様から監視員に対して作品の説明を求められることが多く、その都度、監視員が学芸員を呼び出して対応していたため、学芸員の負担も大きなものとなっていた。その後、学芸員が監視員に展覧会・作品のレクチャーを行い、監視員からお客さんに対して積極的に声掛けしてもらうように対応を変えたところ、「案内してもらえてよかった」「楽しかったのでまた来ます」など好評価の声が多くなり、不満の声はなくなった。また、監視員も、作品やアーティストに対する興味が高まり、美術館のプログラムに積極的に参加する人もいた。

・業務は監視が主となるが、呼び方を「監視員」ではなく「案内員」と呼ぶこととし、従事するスタッフもお客様に対して積極的に声をかけ、展示室内で会話が弾むようになった。

・展示室で会話することについては、「うるさい」「静かに鑑賞したい」というようなクレームはほとんどなく、むしろ評価する声が多く、「ひと」や「こと」を重視するこの美術館における

鑑賞のあり方としては相性が良いと思われる。

・ただし、お客様の中には、一人で静かに見たい方もいるため、その辺の見極めは必要である。

（考察）

・監視員の役目は本来、作品に触れる人がいないよう監視することであり、展覧会や作品の案内や鑑賞に積極的に関わるものではないが、そのことが理解されていなかったように思われる。

（２）来館者からの要望を受けて、対応を改善する（した）もの

要望項目	対応内容
観覧料を支払う際にキャッシュレス決済に対応して欲しい	直営館では公金取り扱いの手続き上、現金のみでの支払いが原則で、オープン時のキャッシュレス決済導入は難しかった。今後の展覧会でオンラインチケットサービスの導入等を検討する。
展覧会を何度でも観覧できるフリーパスを作って欲しい	年間フリーパスの導入を望む声もあったが、展覧会毎に料金設定が異なり、料金設定が難しいため、「持続するモノガタリ展」から同じ展覧会を何度でも観覧できるフリーパスを設けることとした。
65 歳以上割引を市内だけでなく近隣町村まで広げて欲しい	「持続するモノガタリ展」から 65 歳以上割引を八戸市内だけでなく、連携中枢都市圏域内の町村にまで広げることとした。
駐車場利用者の割引を検討して欲しい	「持続するモノガタリ展」から、民間駐車場を利用した場合、運転者１名につき団体割引料金で観覧できることとした。 （一般 800 円→割引料金 700 円）

資料１－２

八戸市美術館　令和３年度来館者動向報告　概要版

１．開館日数・来館者数データ

開館日	2021 年 11 月 3 日（水・祝）
集計期間	2021 年 11 月 3 日（水・祝）～2022 年 3 月 31 日（木）
開館時間	10：00～19：00（入場は 18：30 まで）開館日のみ、朝９時より入館可能
休館日	火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始（12 月 31 日、1 月 1 日）
開館日数	151 日間（うち 41 日間は予約制または、制限付きでの限定開館）
備考	青森県に「まん延防止等重点措置」が適用されたため、2022 年 1 月 26 日（水）より 3 月 21 日（月）の間は、臨時休館とした。ただし、八戸市美術館開館記念「ギフト、ギフト、」開催中の 1/26～2/20 の期間は、人数と観覧時間を制限し、予約限定観覧。2/22～4/10 の期間は、展覧会やイベントが行われる日に限り、館内の飲食やフリー利用の禁止など制限付きでの開館とした。

（１）入館者数：24,329 人　観覧者数：13,667 人

観覧者数は、開館記念「ギフト、ギフト」及び「持続するモノガタリ展」の観覧者数を合算したもの。同時期に開催している「舟越保武展」及び市民ギャラリーでの展覧会の観覧者数は含まれていない。

コロナ禍および降雪によるマイナスの影響を受ける時期であるにもかかわらず、多くの来場者が来館しており、一定の開館効果はあったと考えられる。コロナ禍が終息し、かつ温暖な気候となる時期には、さらなる来場者数の獲得が期待される。

（２）来場者数測定方法

来場者数は以下の方法にて、測定した。

・美術館正面入口での来場者数自動測定器（来場者数カウンター）による測定
・美術館受付でのチケット販売等による来場者数、属性の測定

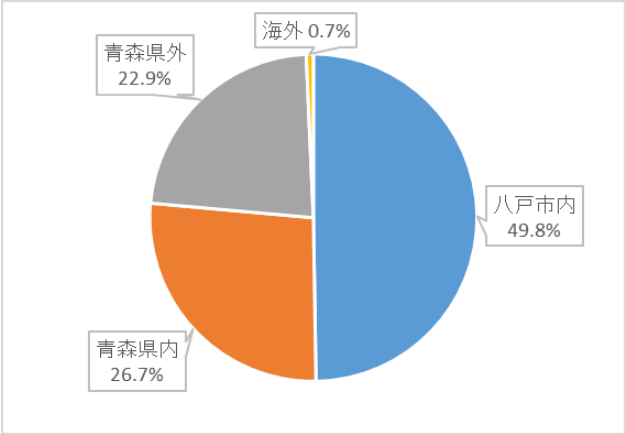
２．各種割引・チケットシステムの導入

展覧会チケットについて、3 月 19 日から開催の「持続するモノガタリ展」から下記の料金設定を導入した。

・同じ展覧会を何度でも観覧できるフリーパス「かおパス」を 2022 年 3 月 11 日（金）より発売。料金は展覧会ごとに設定。（一般・65 歳以上それぞれ通常の 1.5 倍の料金設定）
・近隣の有料駐車場を利用していることがわかる駐車券などの提示により、運転者 1 名分に団体割引を適用。
・65 歳以上の方の割引を、市内から、近隣町村にお住まいの方まで範囲を拡大した。

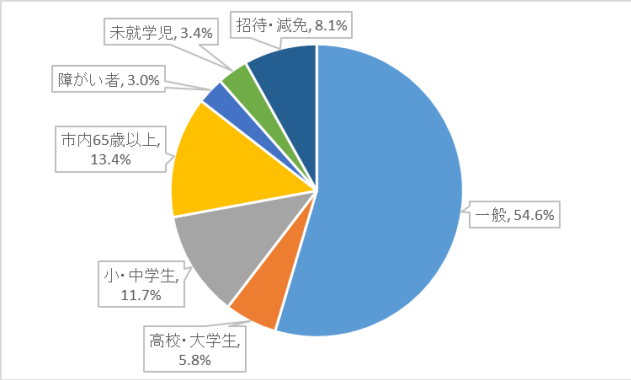
３．市内・市外・県外の割合

八戸市内からの来場者の割合と、市外（青森県内）及び青森県外からの来場者の割合が同程度であり、広く市内外から来場している。市外・県外の人々の関心が伺えることから、コロナ禍終息後の来場者数増加が期待される。海外からの来場者はコロナ禍により、外国人観光客などが来日できない影響が強く伺える。ただし、コロナ禍が一時的に収束した 2021 年 12 月においては、41 名の来場者をカウントしており、コロナ禍終息後のさらなる来場が期待できる数値となっている。



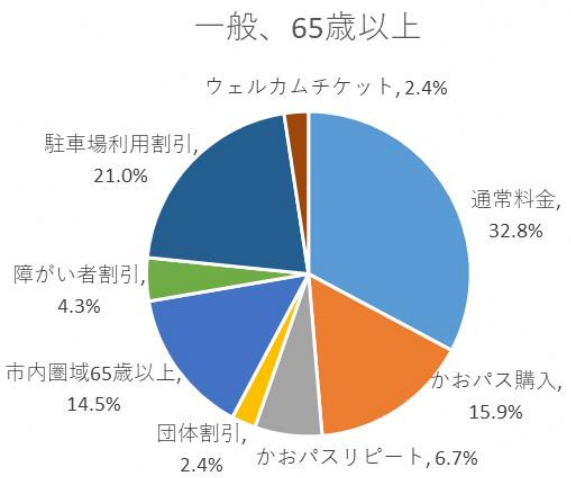
４．来場者の割合（年齢等）

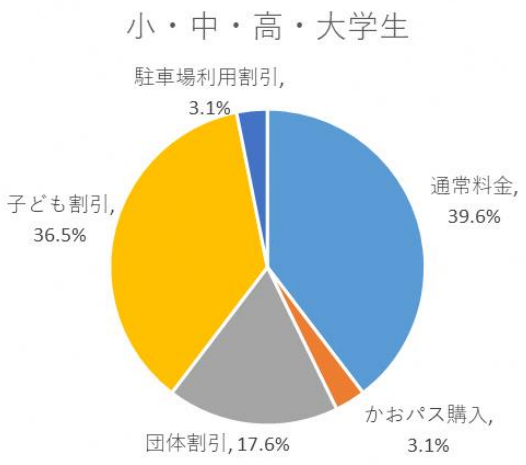
一般の来場者数の割合が 54.6%である一方、未就学児から中学生までを合算すると 15.1%に達しており、若い世代が多く訪れていることが特徴として挙げられ、「学び」をテーマとした本美術館の方針に合致する来場者割合となっている。また、65 歳以上の方の割合も 13.4%と高く、老若男女、幅広い世代が来館していることがうかがえる。一方で、高校・大学生の割合は 5.8%と低く、本美術館が実施しているアートファーマーなどへの参画などにより、割合が増加することが期待される。



５．券種の割合（割引利用等）

展覧会チケットについて、3 月 19 日開始の展覧会から「かおパス」や「駐車場利用割引」の料金設定を導入した。下記は 2022 年 3 月の券種割合を集計したグラフである。3 月 11 日から発売している「かおパス」の購入は一般・65 歳以上において 15.9%を占めており、今後も高い再来率が期待できる数値となっている。小～大学生では団体割引の割合が 17.6%と高く、団体での利用が多いほか、子ども割引も 36.5%となっており、市内及び近隣町村の小中学生に利用されている状況が伺える。





１はちのへ 文化のまちづくりプラン（地方版文化芸術推進基本計画）の概要

資料２

計画策定の趣旨

「八戸市文化のまちづくりビジョン」（平成27年12月策定）の推進期間（概ね5年）の終了と、「文化芸術基本法」が地方の文化芸術に係る計画策定を努力義務としたことから、八戸市の文化芸術に関する総合的な施策を推進する基本計画を策定します。

計画の構成

第1部
＜策定趣旨や理念など＞
・国の法整備等の動き
・当市のこれまでの取組
・市民アンケート等の結果
・基本理念、施策体系等

第２部
＜主要６施策と取組方針＞
・施策の基本的な考え方
・取組方針（３項目）
・主な取組

第３部
＜官民の拠点施設の取組＞
・設置目的と施設概要
・推進していく主な取組

基本理念

「文化芸術を通して市民が生き生きと心豊かに暮らせるまち、文化芸術の力を活用した魅力溢れるまち、八戸の実現」（文化のまちづくりビジョンを踏襲）

共通姿勢

方針１　多様な文化芸術の価値に触れる機会を通して、文化芸術が果たす個人や社会にとっての役割を問い直し、考え、共有する機会（チャンス）とします。
方針２　「日本・地方・八戸ならでは」の独自性や固有性（ユニークさ）を付加価値として追求し、アイデンティティとして深められるよう取り組みます。
方針３　市民主体の文化芸術振興の取組をベースに、市民セクターと行政が地域づくりを担う、共治（ガバナンス）の実現を目指します。

施策体系

施　策	取　組　方　針		
施策１ふれる・ふかめる ～文化芸術に親しむ～	①市民による多彩な文化芸術活動振興のための仕組みや枠組みの構築	②子ども達の文化芸術の鑑賞や学びの機会の充実	③文化施設の文化プログラムの充実と連携
施策２　つくる・いどむ ～新たな創造への取組～	①「アートのまちづくり」の推進と文化創造へのチャレンジ	②クリエイティブビジネスの振興	③発信力強化とファンづくり
施策３　まじる・まざる ～文化芸術による共生～	①共生社会実現に向けた環境づくり	②社会包摂の取組の推進	③文化芸術を通した国際交流の推進
施策４　のこす・いかす ～伝統の継承と活用～	①世界遺産・是川石器時代遺跡の適切な保存と価値の伝達	②地域に根ざす文化の継承と発展	③文化財の保存と活用
施策５　つなぐ・ささえる ～担う人・支える人の確保・育成～	①専門人材の確保、育成	②中間支援機能の強化	③文化ボランティアの活動振興
施策６　あつめる・ひろめる ～連携のソフトインフラ～	①連携・協働を推進するプラットホームづくり	②県や近隣自治体との広域連携の推進	③事業資金確保の取組や企業メセナの推進

２プラン策定の意義と主な取組方針

文化政策の総合性と計画性の向上

文化政策の対象を幅広く網羅・明確にし、目的別の施策・取組方針と具体的な取組をひも付け、**政策・取組の計画性と戦略性を高めました。**また、拠点となる**官民の文化施設28施設について、施設ごとに設置目的や施設概要、推進する主な取組を**分かりやすく整理し**掲載しています。**

＜ベースとなる施策＞

施策１ふれる・ふかめる ～文化芸術に親しむ～

市民による文化芸術活動の振興に関する補助や支援制度の充実、学校とアーティストのマッチング等による**子ども達の鑑賞や学びの機会の充実を図ります。**また、市民が広く文化芸術に親しむために**文化施設の果たす役割は大きく、各施設の運営方針を明らかにすると共に、鑑賞型に留まらず、参加・体験、創造・発信型の文化プログラムへのチャレンジ**、さらには**地域へのアウトリーチや施設間の連携、教育旅行誘致、商業との連携などにも取り組むものとします。**加えて、施策２から６の取組を推進する上でも、文化施設の拠点性を高め、役割を果たしていきます。

＜テーマ別の施策＞

施策２　つくる・いどむ～新たな創造への取組～

文化芸術基本法において、観光やまちづくりなど**他分野との連携による文化芸術の社会的価値の発揮が企図されたことを踏まえ、**当市においてこれまで様々な市民等と取り組んできた**アートのまちづくり（アート×○○）に、「はっち」のレジデンス機能等を活用し引き続き取り組む**と共に、公会堂や「はっち」のシアター２などで**パフォーミングアーツにおける「創造」を目指した取組を推進します。**また、クリエイティビティをコアにした周辺ビジネスをクリエイティブビジネスと位置付け（例えば「裂き織り」などの伝統工芸のクリエイティビティ×デザインによる発信）、**文化芸術とクリエイティブビジネスとの連携強化による双方の振興を図る取組を推進します。**さらに、**発信力の強化やファンづくりの観点から**、クリエイティブ人材のアイデアを活かすなどし、**文化芸術そのものや、多様な主体によるその振興の取組を分かりやすく周知、発信する媒体や方法などを検討し、取り組みます。**

施策３　まじる・まざる～文化芸術による共生～

文化芸術は社会包摂機能を有していることから、文化施設や情報へのアクセス、鑑賞機会におけるバリアを取り除く取組、新たに障がい者の鑑賞、参加、創造機会の創出、外国人住民が当市の文化に理解を深める機会づくりやホスピタルアートなどの文化プログラムを検討し、取り組みます。さらに、当市の文化芸術が持つポテンシャルをより高められるよう、三陸国際芸術祭など、**文化芸術をきっかけとした国際交流の取組を推進します。**また、八戸三社大祭などの**祭が持つ社会包摂機能を活かす**ため、関係者と連携し**参加の輪を広げる取組を推進します。**

施策４　のこす・いかす～伝統の継承と活用～

ユネスコ世界遺産登録の是川石器時代遺跡や国宝などの文化財、更には**地域の伝統文化（祭、伝統芸能、衣食住に関わる生活文化、方言）を**、アイデンティティの源泉となる「市民の宝」とし、これを**受け継ぎ、未来に向け新たな価値を追求し活用していくことを通して、次代に継承する取組を推進します。**また、伝統文化の悉皆調査と課題の抽出と対応、文化財の総合的な保存・活用に係る計画策定、歴史的建造物や文化施設などを利用して会議やイベントを開催し、参加者にその価値を体験してもらうユニークベニューの検討などに取り組みます。

＜環境づくりとなる施策＞

施策５　つなぐ・ささえる～担う人・支える人の確保・育成～

対象範囲が広がる文化政策において、担い手や求められる専門性は広がっており、専門人材について、**アーティストのみならず、文化芸術活動に関する企画・制作を行う者、文化施設における専門人材、地域の文化芸術を熟知しマネジメント力を備えた人材などの確保や育成に取り組みます。**また、**公共の文化施設**では助成や協働、拠点づくりなどを通し、市民による文化芸術活動を支援する**中間支援型の取組を推進することや、民間セクターにおける中間支援機能について検討を進めます。**さらに、美術館における「アートファーマー」、「はっち」の「まちぐみ」、各施設における**ボランティアガイドなどの活動の振興を通して、多様な担い手・支え手が活躍する厚みのある文化芸術活動の展開を目指します。**

施策６　あつめる・ひろめる～連携のソフトインフラ～

「新しい公共（公民連携）」の取組は、地域社会において文化芸術の価値や効果を発揮するために必要な条件であり、八戸ならではの公民連携のあり方を追求します。そのために、連携・協働を推進する**多様な主体が参加するプラットホームづくりにより**、様々な活動（者）の見える化を図ると共に、文化芸術政策に関する学びや、専門性に関する実践講座の実施を通して、文化政策について民間セクターが主体的に議論する場とし、**連携や協働の機会を増やすよう取り組みます。**また、青森アートミュージアム５館連携事業や、三陸国際芸術祭など**自治体間の広域連携を推進すると共に、**地元企業に対し、**企業メセナ活動が地域経済と地域社会の再生に果たす役割への理解を広げ、メセナ活動の機運を高めるよう取り組みます。**

資料３―1

令和４年度事業計画について

０．展覧会とプロジェクト

＊展覧会

誰もが気軽にさまざまなアートに触れられる機会を提供します。八戸の特徴や独自性への理解を深めるために、地域に関連した、あるいは比較対象となる、過去から現代に至る国内外のアートを扱います。

＊プロジェクト

アートを通して人と人が出会い、学び、一緒に活動し、作品だけでなく新たな価値を生み出します。市民やアーティスト、専門家、美術館スタッフなどが同じ場で学び、共につくることで、完成形だけでなくプロセスをも共有することが特徴です。

１．課題

＊来館者層の拡大

これまでに美術館に来館したことがないような市民に足を運んでもらうための方法。

＊日常的なプロジェクト（活動）の見せ方

平日の昼間など、ジャイアントルームで活動が行われていないときの見せ方。

＊アートファーマープロジェクトの活発化

継続的に活動を行うアートファーマープロジェクトの企画。

２．展覧会・プロジェクト・アートファーマー

＊各事業に応じて、展覧会とプロジェクトを組み合わせながら展開。規模、内容に応じて、各室を組み合わせて利用。

＊冬季（１～３月）の展示室は貸館運営を主体とすることで、アートファーマープロジェクトの充実を図る。

＊来年度のゲストキュレーター企画「美しい HUG」を構成するプロジェクトの実施。

＊《今後の検討》現在の八戸のアーティストを紹介する企画。八戸市民発の多様な芸術活動を紹介する企画。ギャラリーで開催する規模の公募展。

・コレクションを紹介する展覧会
　春「持続するモノガタリ」、春～冬「コレクションラボ（001～003）」
・他館から巡回する展覧会
　夏「まるごと馬場のぼる展」
・市内他施設と協働する展覧会
　秋「佐藤時啓　八戸マジックランタン（八戸ブックセンター）」
・共創パートナーと協働する展覧会
　秋「八戸市美術展（八戸文化協会）」
・ジャイアントルームの利用実験となるプロジェクト
　春「ジャイアント食堂」
・継続的なアートファーマープロジェクトの実践
　夏～秋「野点」、冬「検討中」

３．コレクション

＊プロジェクトのコレクション化

・プロジェクトで制作した「もの」、写真、映像、再演するためのアーカイブ。

・プロジェクトの常設展示。常に人の活動が見えるわけではない。
・アーティストが関与したプロジェクト→作品→コレクション。
＊コレクションラボとコレクション企画
・コレクションを用いたプロジェクト。
・新収蔵作品の紹介。
＊コレクションの公開
・web 上での公開。収蔵資料管理システム I.B.MUSEUM の利用。

４．学校連携
＊学校連携プロジェクトチーム
・活動のジャイアントルームでの視覚化。プロジェクトの常設展示。
・《今後の検討》展覧会の開催を前提としたプロジェクト。

５．広報・制作物
＊小中学校など地域に向けた発信の強化。
＊web
・日々の活動の発信。
＊映像
・映像によるプロジェクトの発信。
＊出版物
・《今後の検討》カタログ（図録）の位置付け。イヤーブック。

資料３－２

令和４年度八戸市美術館運営事業について

１．事業概要

令和３年（2021 年）11 月３日に開館した新美術館について、「出会いと学びのアートファーム」としての運営を図る。

２．令和４年度の主な事業内容について

(1) 美術館の企画運営　【予算額：66,369 千円】

企画展、巡回展、コレクションラボを開催するほか、各種プロジェクトを展開する。

（主な内容）

①企画展「持続するモノガタリ」の実施（R4.3.19～6.6）

②巡回展「まるごと馬場のぼる展」の準備・実施（R4.7.2～8.29）

③写真のまち八戸「佐藤時啓－八戸マジックランタン－」の実施(R4.10.29～R5.1.9)

④コレクションラボ（展示・企画）の実施

⑤アートファーマープロジェクトの実施

⑥学校連携プロジェクトの実施（学校連携ラボの設置・運営等）

⑦大学・高専連携プロジェクトの実施　など

(2) 施設の維持管理　【予算額：129,293 千円】

展示室や収蔵庫の空気環境を整えるとともに、施設の適切な維持管理を行う。

（主な内容）

①清掃・警備等業務委託

②施設・設備の保守・修繕　　など

(3) 美術館の施設整備　【予算額：15,300 千円】

展示室や収蔵庫の空気環境を整えるとともに、開館後に必要となった備品を購入・設置する。

（主な内容）

①空調機ケミカルフィルター交換

②備品の購入・設置（スポットライト等）　　など

資料３－３

令和４年度事業概要について

１．概要

・「出会いと学びのアートファーム」をビジョンとする八戸市美術館は、中期運営計画において、開館１年目は、「新美術館のビジョンを体現した斬新な企画や施設運営を展開し、八戸にこれまでなかった新しいタイプの美術館ができた喜びを市民と分かち合う」年と位置付けている。

・しかしながら、コロナ禍の状況や厳しい財政状況を鑑み、令和４年度展覧会の計画にあたっては、会期や実施時期の見直しを図るなど、現状に即した可能な限りの対策を講じている。

・一方で、「展覧会」と「プロジェクト」が有機的に連動するという美術館の個性をより鮮明に打ち出すため、外から見た視点で八戸のまちを捉え直すことができる外部キュレーターを招聘し、アーティストと地域の人々との創作活動を通して、地域資源の発掘や新たな価値付けを行うとともに、地域の人々に創造的な活動に携わることの楽しさや意義を体感していただくプロジェクトを併走させ、令和５年度に同プロジェクトから生まれた作品やそのプロセスのアーカイブ等で構成する展覧会の開催を計画している。

２．令和４年度事業費（予算額）

６６，３６９千円

３．展覧会

展覧会名／会期	内容
コレクション展 「持続するモノガタリ －語る・繋がる・育む」 R4.3.19（土）～6.6（月）	・旧美術館から５年振りに収蔵作品をテーマとした展覧会を開催。 約３千点ある美術館のコレクションから厳選した、八戸の土地にまつわる作品や、作家たちのつながりを示す作品約 140 点を展示する。 ・八戸におけるコレクションの歴史を振り返るため、八戸市博物館及び、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の収蔵資料も展示する。
巡回展 「まるごと馬場のぼる展　描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！」 R4.7.2（土）～8.29（月）	・三戸町出身の漫画家・馬場のぼるを様々な側面から紹介する展覧会。 ・絵本や漫画の原稿や原画、50 年分のスケッチなどの資料に加え、漫画に熱中していた青少年時代の貴重なノートやイラストも展示。また、馬場を取り巻く人間関係からも、馬場の作品や人柄の魅力を紹介する。 ・三戸町や地元メディアを構成員とする実行委員会により展覧会・イベントを実施し、八戸圏域内外からの誘客を促進する。
八戸市美術展 R4.9.30（金）～10.2（日） R4.10.7（金）～10.9（日）	・八戸市文化協会との共催により、全館を使って市民が創作した書道や絵画、写真など多彩なジャンルの作品約 500 点を展示する。 ・従来の八戸市文化協会会員を中心とする展示に加え、広く市民や若手アーティスト、学生等の作品発表の場を提供することで、市民の創作活動の活性化を図るとともに、若手アーティストの発掘・育成支援や、アーティストを志す学生のモチベーション向上にも資する機会とする。
企画展 写真のまち八戸 「佐藤時啓　－八戸マジックランタンー」 R4.10.29（土）～R5.1.9（月）	・写真家の佐藤時啓氏が、平成 28 年度から６年にわたり八戸の地域資源を撮影して制作した新作の写真約 100 点を展示する。 ・会期中には、市民写真家によるグループ展や、作家と市民が交流するワークショップを開催するほか、写真集を制作し、企業や書店連盟、ブックセンター等と連携した関連企画を行うなど、美術館単独に留まらない事業展開により、写真を切り口に、多くの方々に八戸のまちに興味を持っていただけるような内容とする。

４．コレクションラボ（常設展）

展覧会名	会期	内容
コレクションラボ 001 「舟越保武展」	R4.3.19（土） ～6.20（月）	・具象彫刻の頂点を築いた彫刻家・船越保武の作品を展示。
コレクションラボ 002 「はちのへ郷土展（仮）」	R4.9.10（土） ～1.16（月）	・八戸の郷土を感じる風景が描かれた作品を展示。
コレクションラボ 003 新収蔵作品展（仮）	R5.1.21（土） ～R5.4.10（月）	・令和４年度新規収蔵予定の作家の作品を展示。

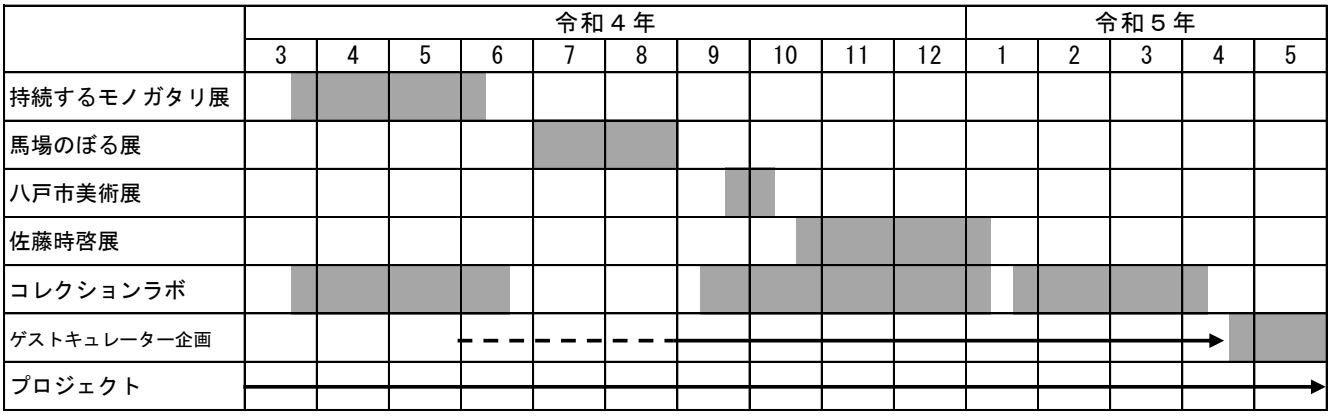
５．令和５年度開催予定展覧会関連プロジェクト

展覧会名	会期	内容
ゲストキュレーター企画 （展覧会タイトル未定）	令和４年度から作品制作やイベント等を実施し、展覧会は令和５年の春～夏に開催予定	・外部人材（ゲストキュレーター）を招聘し、展覧会とプロジェクトが有機的に連動した企画を実施する。 ・令和４年度は、全国的な活動を展開している現代アーティスト複数名が参加し、地域の方々と一緒に地域資源の発掘や、地域の人々に創造的な活動に携わることの楽しさや意義を体感していただくプロジェクトを実施する。

６．プロジェクト

プロジェクト名	内容
アートファーマープロジェクト	美術館を拠点に、アートを介して地域社会を育む様々なプロジェクトを、市民等(アートファーマー)との協働により実施する。
学校連携プロジェクト	小中高の教員・美術館学芸員・専門家で構成するプロジェクトチームが主体となり、学校現場で活用しやすいプログラムやツールの開発・実践・発表を行うなどの事業に取り組む。
大学・高専連携プロジェクト	八戸学院大学・八戸工業大学・八戸工業高等専門学校の有する専門性と美術館の専門性を活かし、人材育成・地域経済活性化等に寄与する事業を実施する。

７．年間スケジュール



資料３－４

持続するモノガタリー語る・繋がる・育む 八戸市美術館コレクションから 経過報告

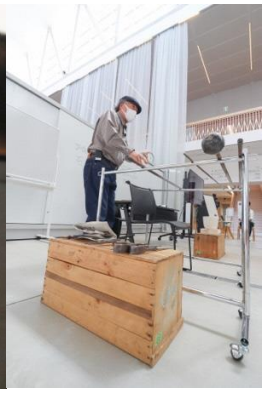
2022 年 5 月 9 日現在

■観覧者数　　3,246 人
■イベント
(1)茶会 with 静寂
　内容　福田剛三郎《静寂》のモデルをつとめた福田宗和がお茶を点て、おもてなしします。
　亭主　福田宗和
　日時　3/27(日)15:00～16:00
　参加者　29 名

(2)鑑賞クラブ「木夕」
　内容　木曜夕方のクラブ活動。作品を1点選び、集まったみんなで楽しくおしゃべり鑑賞。
　日時　①3/31、②4/14、③4/28、④5/12、⑤5/26　いずれも 18:00～18:45
　参加者　①3 名、②5 名、③7 名、④2 名、⑤--名

(3)アーティストトーク

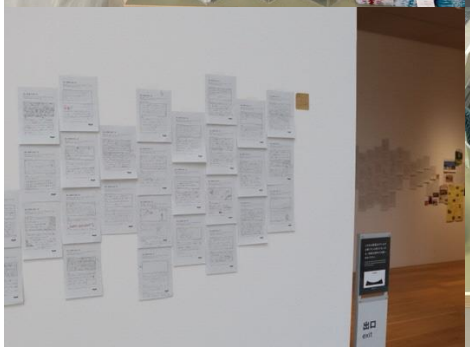
内容　　アーティストが自身の展示作品を語ります。
出演　　①石橋忠三郎、②今川和男
日時　　①4/24(日)、②5/22(日)　　いずれも 11:00～12:00
参加者　①25 名、②--名



(4)ギャラリートーク

内容　　学芸員が展覧会の見どころを語ります。
日時　　①3/19、②4/9、③5/8、④6/5　いずれも 14:00～15:00
　　※①3/19 は新型コロナウイルス感染状況により中止
参加者　①--名、②17 名、③8 名、④--名

■その他



八戸市美術館公式 YouTube でムービー公開中
「持続するモノガタリー語る・繋がる・育む　八戸市美術館コレクションから PV」https://youtu.be/BLvwayanKx4
「茶会　with　静寂」https://youtu.be/9bAcn0D0XWA

資料３－５

「まるごと馬場のぼる展　描いた つくった 楽しんだ ニャゴ！」説明資料

１．展覧会

(1)展覧会名称：まるごと馬場のぼる展　描(か)いた つくった 楽しんだ ニャゴ！

(2)企画概要：

・絵本「11 ぴきのねこ」シリーズで知られる三戸町出身の馬場のぼる（1927～2001）は、1948 年に漫画家としてデビューし、翌年上京。その後、子ども向けの雑誌で本格的に活動を開始し、連載漫画『ポストくん』が評判となり、瞬く間に人気漫画家となる。本展では、絵本や漫画の印刷原稿や原画、50 年分のスケッチなどの資料に加え、漫画に熱中していた幼少期や青年期の貴重なノートやイラストなども合わせて展示。さらに、馬場を取り巻く人間関係からも、馬場の作品や人柄の魅力を紹介する。

・本展は、八戸市美術館の他、練馬区美術館、刈谷市美術館を巡回する、巡回展である。八戸会場ならではのオリジナル企画として、三戸町の「11 ぴきのねこのまちづくり」に関する映像展示を行う。

・また、本展を通じて、八戸圏域内外からの来館者について、八戸市内や三戸町への周遊を促進させるよう関係機関との連携を図る。

(3)会　　期：

令和４年７月２日（土）～令和４年８月 29 日（月）【51 日間、火曜日は休館】

※７月１日 13 時～　セレモニーと内覧会を開催

［参考：巡回日程］

①練馬区立美術館　令和３年７月 25 日（日）～令和３年 ９月 12 日（日）

②八戸市美術館　　令和４年７月 ２日（土）～令和４年 ８月 29 日（月）

③刈谷市美術館　　令和４年９月 17 日（土）～令和４年 11 月 ６日（日）

(4)運営体制：

①主　　催：まるごと馬場のぼる展八戸実行委員会（八戸市美術館、三戸町、株式会社デーリー東北新聞社、青森朝日放送株式会社、一般財団法人ＶＩＳＩＴはちのへ）

②特別協力：こぐま社

③企画協力：株式会社アドシステム

④協　　力：コミュニティラジオ局ＢｅＦＭ

⑤後　　援：八戸市教育委員会、三戸町教育委員会、八戸商工会議所、三戸町商工会、三戸町観光協会、ＮＨＫ青森放送局、株式会社八戸テレビ放送、青い森鉄道株式会社、岩手県北自動車株式会社、八戸市私立幼稚園協会、三戸町教育振興協議会

(5)展覧会構成：

A　11 ぴきのねこ 全員集合 ニャゴ！

C　ルーツをたどる 幼少期から漫画家デビューまで

D　漫画を描いた！ 児童漫画から大人漫画へ

E　絵本を描いた！ 5 つキーワード

F　描いた！つくった！楽しんだ！

G　最期の絵本 ぶどう畑のアオさん

B　スケッチ・みつめて描いた！　　（練馬会場と章の順序が異なります。）

(6)観覧料体系：

①基本的な観覧料

区分	通常料金	団体料金(20 名以上) ※通常料金の 80%
一般	1,000 円	800 円
高校・大学生 ※一般の 50%	500 円	400 円
小・中学生	無料	無料
未就学児	無料	無料
障がい者手帳をお持ちの方と その付添者１名	半額	半額

②八戸圏域の方(八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)

区分	通常料金	団体料金(20 名以上)
65 歳以上	[一般]の半額(500 円)	[一般]の半額(400 円)
小・中学生	無料	無料

③その他割引

区分	内容
駐車場割引	近隣の有料駐車場を利用した場合、運転者１名分に団体料金を適用
フリーパス「かおパス」	馬場のぼる展に限り何度でも観覧可能なフリーパス 一般：1,500 円、高校・大学生：750 円

現在、オンラインチケットの導入や、来場者へのノベルティを検討中。

２．関連イベント

①講演会「『11 ぴきのねこ』と馬場のぼる先生―その世界を支えたユーモアと故郷・青森―」

②鑑賞プログラム「見て、読んで、おしゃべり鑑賞会」

③「図書館のおはなし会」

④「11 ぴきのねこラッピングバスがやってくる！」

⑤「馬場のぼる ゆかりの地を巡るバスツアー」

その他、ねこの着ぐるみと写真撮影会や市民大学講座での講演（関谷さん）が決定、創作ワークショップなども検討中。

３．広報

展覧会について幅広く周知するため、新聞広告、テレビＣＭを軸に効果的な広報を実施する。

デーリー東北：カウントダウン広告、連載記事

青森朝日放送：6/1～告知 CM、7/2 ハッピィ情報局、7/16 情報番組「とくもり！」

資料３－６

「佐藤時啓―八戸マジックランタン―（仮）」説明資料

「写真のまち八戸事業」は、平成 25 年度に市長 3 期目の政策公約として掲げられ、優れた写真を見て、感じて、体験できる場を設け、写真を楽しく学ぶ機会を充実させることを目的として実施してきた。鉄道写真の第一人者である広田尚敬氏の写真展を皮切りに、日本の写真史を飾った写真家 101 名の写真展や、一般や市内中学生を対象とした公募展、市民意見交換会などの様々な事業を展開してきたところである。

また、平成 28 年度からは国内外で評価の高い写真家である佐藤時啓氏を招聘し、写真を通じて市民と交流するワークショップや、当市の地域資源を題材とする写真作品の滞在制作を継続してきたところである。

このような背景をふまえ、新美術館の開館を機に、「写真のまち八戸事業」の集大成、かつ６年にわたる佐藤時啓氏による写真作品の滞在制作の集大成となる、本展覧会を実施するものである。

本展覧会では、幻灯機(マジックランタン)や、カメラの原型となったカメラ・オブスクラから着想を得て撮影された八戸三社大祭・八戸えんぶり・工場などをテーマとした作品を中心に、吉田初三郎の鳥瞰図のようにドローンを活用して当市上空から撮影した鳥瞰写真など、市民との交流を通じつつ同氏の特徴である様々な装置や技術を駆使して撮影された完全新作の約 100 点を展示する。

また、本展覧会の展示作品を収録した写真集については、三菱製紙(株)八戸工場・八戸市書店連盟・八戸ブックセンターなどの市内企業・団体等と連携を図り、美術館の単独事業に留まらないプロジェクト型の事業展開により制作する。

Ⅰ．展覧会詳細

会期　令和４（2022）年 10 月 29 日（土）～令和５年１月９日（月・祝）

観覧料　一般 1000 円

会場　八戸市美術館（ホワイトキューブ、ブラックキューブ等）

Ⅱ．プロジェクト概要

１，写真集制作プロジェクト

概要：展示作品を収録した写真集について、八戸ブックセンターを共創パートナーとし、市内企業・団体と連携したプロジェクト型の事業展開により制作する。写真集の用紙は、三菱製紙(株)八戸工場で製造される写真集に適した高品質の紙を使用する。写真集の販売については、八戸市書店連盟との協力体制を構築し、市内各所で写真集を販売するほか、八戸都市圏交流プラザ8base(エイトベース)など他都市での販売についても検討する。また、写真集の制作プロセスに着目し、本や印刷の視点で関連企画を行う。このように、本展覧会の写真集制作について、「本のまち八戸事業」と「写真のまち八戸事業」の両方のアプローチから、複層的なプロジェクトとして展開する。

（１）制作・販売

内容：展覧会で展示する作品を一冊にまとめた写真集を作成する。また、これまで八戸市美術館で制作した展覧会図録（図版集）は美術館内だけで販売していたが、市内書店でも販売し、美術館や中心街だけでなく展覧会を盛り上げる。

写真集仕様：サイズ：A4 程度／カラー：4C/4C（フルカラー）／ページ数：200 ページ程度／制作部数：500 部

協力依頼先：八戸市書店連盟

（２）展示等関連企画

概要：写真集を印刷する際に作成される版や、印刷用の紙に着目した展示を行う。また、制作過程に携わった人によるトークイベント等を実施する。なお、実施は八戸ブックセンターが主催となる。

①展示

タイトル：「紙から本（写真集）ができるまで 2022 展」（仮）

展示内容：八戸ブックセンターがこれまで行ってきた「紙から本ができるまで展」として実施する。佐藤時啓展写真集制作にあたり使用した原稿や印刷版などを展示する。

期間：佐藤時啓展の会期に準ずる

場所：八戸ブックセンター　ギャラリー

入場料：無料

主催：八戸ブックセンター

共催：八戸市美術館

協力：三菱製紙株式会社　八戸工場

②トークイベント

内容：「紙から本ができるまで展」写真集制作に携わった作家・編集者・デザイナー・協力をいただいた三菱製紙八戸工場によるトークイベントを実施する。

期日：佐藤時啓展の会期内

場所：八戸ブックセンター

２，ワークショップ等普及プログラム

概要：展示作品に関連したワークショップや、作家によるトークイベントを通して、作家の制作過程を体験できる機会を提供することで、作品への理解を深めるきっかけとする。

（１）アートファーマープロジェクト

①八戸リヤカーメラプロジェクト（仮）

佐藤氏制作のリヤカーにカメラ・オブスクラが付いた「リヤカーメラ」を用いたプロジェクトを実施する。会期前に募集したアートファーマーが参加者同士で話し合いながら運行ルートを決定する。会期中はアートファーマーが実際にリヤカーメラの運行を担当し、美術館の来館者がリヤカーメラを体験する機会を設ける。

アートファーマー募集人数・条件：20 人程度
※運行日に参加できる人
アートファーマー募集期間：2022 年 7 月中旬～8 月
プロジェクトミーティング：2022 年 9～10 月のうち数回
佐藤氏を講師に、佐藤氏の活動やリヤカーメラについてのレクチャー、実施に向けての打合せを実施する
本番実施：10 月 9 日（土）（出張）、
11 月 6 日（日）（美術館）
本番実施場所：八戸公園（出張）、ジャイアントルーム、マエニワ、オクニワ、館外（1 か所）

②（市民展）写真のまち八戸　八戸フォトマッピング（仮）

市内写真団体に所属する市民写真家によるグループ展。八戸市内の自慢のスポットで撮影した写真を募集展示する。合わせて写真の撮影場所の地図を会場内に展示することで、市民ならではの目線で発見した八戸の自慢のフォトスポットを可視化する。

会期：令和 4 年 12 月 21 日（水）～1 月 9 日（月・祝）
場所：ギャラリー1・2

③共創パートナー「八戸フォトジャーニー」連携企画

Ａ．「八戸フォトジャーニー　佐藤時啓展編」の発行
八戸在住の高田幸枝氏（写真愛好家）による小冊子「八戸フォトジャーニー」と連携。八戸フォトジャーニーに佐藤展の特集号を掲載してもらう。
※美術館の協力内容：展覧会に関する情報提供、執筆協力、配布協力

Ｂ．八戸フォトBookプロジェクト

「八戸フォトジャーニー」のようなフォトブックを実際に作るプロジェクト

第1回　手作り冊子とは何か　講師案：高田さん&太田さん（八戸ブックセンター）

第2回　編集・デザインについて　講師案：松本さん&野村さん

第3回　自分のBookを考える　講師案：東方さん（アーティスト、八戸工業大学講師）

第4回　実践

（２）カメラ・オブスクラ制作ワークショップ（仮）

概要：身近な素材を使ってカメラ・オブスクラを制作する。制作したらジャイアントルームで鑑賞する。

講師：佐藤時啓氏

日にち：11月27日（日）午前

場所：ワークショップルーム、ジャイアントルーム

対象：特になし（小学生以下保護者同伴）、10組程度

（３）トークイベント

内容：佐藤氏と図録に寄稿いただいたゲストによるトークイベントを行う。佐藤氏の作品にスポットをあてるだけでなく、作品制作の裏話や、佐藤氏の八戸での生活について、また、その過程で培われた（？）サバイバル力にスポットをあてたトークイベントを実施する。

日にち：11月26日（土）午後

場所：ホワイトキューブ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム、スタジオ

対象：特になし

資料３―７

八戸市美術館 2023 年春夏企画
ゲストキュレーター企画「美しい HUG！（仮）」説明資料

●企画概要

八戸市美術館開館後の 2 年間において、「出会いと学びのアートファーム」のコンセプトと、「展覧会」と「プロジェクト」を２つの柱とする八戸市美術館ならではのアイデンティティを確立するため、元水戸芸術館学芸員で、東京都歴史文化財団にてプロジェクト等のディレクターを務める森司氏をゲストキュレーターに迎え、現代アートの展覧会とプロジェクトの企画を実施する。
展覧会では、世界的に知られるアーティストから若手のアーティストまで、参加アーティストをラインナップ。プロジェクトとしては、2022 年度から、市民とともに運営し、まちに出かけて展開する野点のプロジェクトや、市民協働作品制作などに取り組み、展覧会につなげる。
アーティストが美術館と出会う。鑑賞者が作品と出会う。ワークショップやプロジェクトと出会う。過去と現在と出会う。そして、多くの人が「新しい美術館」で「アートプロジェクト」と「アートワーク」と出会う。さまざまな予期せぬ出会い＝“美しいＨＵＧ”が生まれる企画を目指す。

●企画名：

美しい HUG（仮）

●展覧会会期：

2023 年 4 月 29 日（土）～ 8 月 21 日（月）

●事業期間

令和４年４月～令和５年８月（予定）
・令和４年度：招聘アーティストと地域住民によるプロジェクト・作品創作、展覧会の準備
・令和５年度：展覧会の開催と、関連プロジェクトの実施

●会場

八戸市美術館ホワイトキューブ、コレクションラボ、ブラックキューブ、ジャイアントルーム、ギャラリー１を予定

●アーティスト

青木野枝、井川丹、川俣正、きむらとしろうじんじん、黒川岳、タノタイガ　　（五十音順）

●広報デザイン

三上悠里、米山真司（WEB）、菅井留美（WEB）

●ゲストキュレーター

森司（東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長／東京アートポイント計画ディレクター）

●全体予算（予定）

約 35,000 千円（令和 4 年度～５年度の 2 か年分。令和 4 年度約 20,500 千円）

●担当学芸員

主担：大澤苑美　副担：篠原英里
アーティスト担当：高森大輔副館長（じんじん）、松倉寛幸 GL（タノ）、大澤苑美（井川）、篠原英里（じんじん）、齊藤未来（青木）、田村由衣（タノ）、高橋麻衣（川俣）、平井真理（黒川）
統括：佐藤慎也館長

●展覧会参加アーティスト

1：青木野枝

鉄の彫刻作品を美術館や芸術祭で展示。GR に制作

2：井川丹

作曲家。音楽作品を市民と制作し GR に響かせる。

3：川俣正

公共空間に材木をめぐらせたインスタレーションが特徴。WC で展示。

4、きむらとしろうじんじん

野点プロジェクトを全国で展開。美術館での展示は初となる。

5、黒川岳

石の穴に頭を入れ音を聞く石の彫刻をニワに設置。まちにも展開。

6：タノタイガ

社会の違和感・問題に表現でアクションを投じる。お面「タノニマス」WC で。

●プロジェクト

①　きむらとしろうじんじん　　野点 in 八戸プロジェクト

ドラッグクイーンの「じんじんさん」がまちに繰り出し、まちの人たちとコミュニケーションを楽しみながら、お茶碗をつくり、お茶を飲む「野点」を会期前年度と会期中に実施。アートファーマーの市民と運営チームをつくり、野点プロジェクトを実施していく。

5 月　　プロジェクトスタッフ（アートファーマー）募集開始
6 月 11 日（土）・12 日（日）　　説明会＋お散歩会
7 月 16 日（金・祝）～ 18 日（日）　説明会＋お散歩会
9 月 25 日（日）　スタッフ向け野点体験会（八戸市美術館）
10 月 1 日（土）　野点本番（場所未定）

②　井川丹　合唱録音プロジェクト

展覧会期間中にジャイアントルームで響かせる音楽作品として、八戸の児童との合唱曲を録音し、音楽を制作、録音する。

森 司　（MORI Tsukasa）　プロフィール

1960 年愛知県生まれ。水戸芸術館現代美術センター学芸員時代（1989-2009）には、川俣正、日比野克彦、宮島達男などの個展を企画する。2009 年より公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京事業部事業調整課長。「東京アートポイント計画」ディレクターとして NPO などと協働したアートプロジェクトの立ち上げから企画運営に関わり、人材育成プログラム「Tokyo Art Research Lab」を手掛ける。2011 年 7 月から 2021 年 3 月まで「Art Support Tohoku-Tokyo（ASTT）」を担当。2015 年より東京都オリンピック・パラリンピックリーディング事業ディレクターとして、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を担当し、TURN フェスなどを実施。東北芸術工科大学客員教授、女子美術大学特別招聘教授。

資料３－８

コレクションラボ事業説明資料

八戸市美術館に設けられた小展示室「コレクションラボ」では、収蔵品を中心に、年に３回程度、無料の常設展示を実施する。同時期に開催する企画展と関連性のある展示や、展示室の特徴を活かした実験性のある展示を行うことで、様々なアプローチで来館者と美術館のコレクションを繋ぐ取組を展開する。

展示スケジュール

区分	展示タイトル	期間	内容
R4 年度 春	コレクションラボ 001 舟越保武展 静謐の中に佇む	2022/3/12 ～6/20	没後 20 年を機会に、当館の所蔵する彫刻やリトグラフ等、全 19 作品を展示し、具象彫刻の頂点を築いた静謐で重厚感溢れる舟越保武の世界を紹介。
R4 年度 夏	（実施しない）※		
R4 年度 秋～冬	コレクションラボ 002 はちのへ郷土展（仮）	2022/9/10 ～1/16	八戸ゆかりの作家による、八戸の風景が描かれた作品を展示。描かれた風景の実地調査に絡めたプロジェクトも実施予定。
R4 年度 冬～春	コレクションラボ 003 新収蔵作品展（仮）	2023/1/21 ～4/10	令和３年度の美術品等収集委員会を経て受入となった寄贈作品のお披露目となる展覧会。

※R4 年度②夏の枠は、馬場のぼる展でコレクションラボの展示室を使用するため、当該期間はコレクションラボ事業展示を行わない。

観覧料　　無料
主催　　八戸市美術館

企画書　「コレクションラボ 002　はちのへ郷土展（仮）」

地元作家による、八戸市の風景が描かれた作品を展示する。地元作家の存在を来場者に知ってもらうと同時に、作品が描かれたときの背景や、作家の心情を紐解く。

また、作品に描かれた風景を実際に探し、その場所にまつわる思い出を語るプロジェクトや、マッピングプロジェクトも開催。

会期：令和 4 年 9 月 10 日(土)～令和 5 年 1 月 16 日(月)
会場：コレクションラボ
休館日：火曜日（祝日の場合はその翌日）
観覧料：無料
主催：八戸市美術館
展示候補作品：石橋宏一郎《蕪島》、白取善助《八戸港》、高藤義雄《新井田川漁港》、名久井由蔵《種差海岸》、樋口猛彦《八太郎台場跡》、福田剛三郎《海濱風景》、樋口雄彦《八戸競馬場》左舘暁《北の河》等
関連プロジェクト：
①作品の景色を探しに行こう
・作品に描かれた八戸市内の景色を探しに、実際に街歩きをするプロジェクト。楽しみながら作品の描かれた軌跡を辿る。
・描かれた当時と現在の風景を比べながら、自分たちの知っている情報や思い出について語り合う。
②市内作品マップ作成プロジェクト
・地元作家の作品が、自分の生活圏にあることを知るきっかけとなること狙ったプロジェクト。
・ジャイアントルームに大きなマップを貼り、来館者が「市内作家の作品が展示されているお宅やお店」をマークしていく。（例：熊八珍の七尾英鳳作品、ドトールの伊藤二子作品等）

プロジェクトについて

１．アートファーマープロジェクト

アートを介して社会に関わる各種プロジェクトに、主体的・能動的に関わり、アートで八戸のコミュニティを耕し、育む人を「アートファーマー」と呼び、様々なプロジェクトを実施する。

令和４年度は、展覧会に関連したアートファーマープロジェクトと合わせて、市民がアートを通して学びを深め、プロジェクトの参加者や来館者をはじめとしたさまざまな人々と交流するプログラムを実施する。

（１）実施プログラム案

①誰もが関われる美術館をつくるためのアイディアミーティング

障がい者や外国人、高齢者、小さな子どもがいる方など、美術館を訪れたり、作品鑑賞を楽しんだりするために何らかのバリアを感じている当事者の方をゲストに招き、時には専門家も交えて、美術館のアクセシビリティを高めるためにはどのような実践が必要か、共に考えるアイディアミーティングを行う。

期間：通年

会場：八戸市美術館　ジャイアントルーム　ほか

②アーティストとの作品創作活動

国内外で活動するアーティストとアートファーマーとのの交流の機会を創出し、互いが語り合う場づくりや、共に作品の創作や鑑賞を行うワークショップなどを開催する。美術館活動に携わる人材を増やし、将来的に創造的人材の増加につなげることをねらいとする。

期間：通年

内容：「きむらとしろうじんじん野点ｉｎ八戸」など

会場：八戸市美術館　ジャイアントルーム　ほか

③アートファーマーによる美術館ガイドツアー

美術の専門家ではないアートファーマーだからこそ発見できる視点で、展覧会や美術館の建築などをガイドするツアーを実施する。実施に向けて、ツアーのテーマに合わせたレクチャーやワークショップなどを開催し、ガイドが学びを深める機会を創出する。

また、上記のプログラム①や②に参加するメンバーによるツアーや、小中学校連携プロジェクトと関連したツアーなど、他の事業と連携も積極的に連携を図っていく。

期間：通年

会場：八戸市美術館　ジャイアントルーム　ほか

２．学校連携プロジェクトチーム

小中高校の教員と、美術館学芸員、専門家でプロジェクトチームをつくり、学校現場で活用しやすいプログラムやツールの開発・実践・発表を行う。

（１）実施期間

令和４年４月～令和５年３月（本事業は令和２年度から開始。令和５年度以降も継続予定。）

（２）メンバー構成

①教員（小学校・中学校・高校）※16 校から 18 名が参加

②美術館学芸員

③専門家（武蔵野美術大学教授 三澤一実氏）

（３）令和４年度の活動テーマ

①美術館新聞部

令和３年度に実施したプロジェクトの一つ「美術館新聞部」の活動を、令和４年度にも継続する。小中学生・高校生が、独自の視点でアートやまちを取材し、美術館を拠点に発信する。

②美術館活用プログラムの開発

現在、市内外の多くの学校から、遠足や修学旅行、社会科見学等で美術館に来館いただいている。また、授業や宿題に美術館の活用を想定している教員もいる。このため、来館時により分かりやすく展覧会や美術館を楽しんで学んでもらえるようなプログラムの開発を、チームで検証を重ねて行う。開発したプログラムは各校に活用してもらえるように校長会等でお知らせする。

（４）活動内容

・年に 5 回程度、専門家を招いて会議を実施し、活動テーマについての意見交換、プログラム開発等を進める。

・チームメンバーは各自、館内に設置するラボを自由に活用して、調べ活動や授業・プロ　グラム開発を行う。

・ラボで毎年の成果を小展示等で発表する。

・令和６年度は、チームが学校や美術館で実践してきた成果の集大成を、ホワイトキューブで展示予定。

３．大学連携プロジェクト

八戸学院大学・八戸工業大学・八戸工業高等専門学校の有する専門性と美術館の専門性を活かし、人材育成・地域経済活性化等に寄与する事業を実施する。

【連携案】

（１）八戸学院大学

「八戸学院まちなかラボ」の活用、委託事業の実施　等

（２）八戸工業大学

「ばんらぼ」との連携事業、八戸工業大学創立 50 周年事業での美術館活用　等

（３）八戸高専

エンジニアリングデザイン講座での研究活動　等

資料３－１０

「ジャイアント食堂」説明資料

１．事業目的（企画意図等）

　ジャイアントルームの可能性を探るプロジェクトとして実施。「もの」だけでなく「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、作品を鑑賞するだけでなくさまざまな活動が美術館で行われることの一つの実践を『「ひと」を含んだ作品』として提示することで、美術館やそのコンセプトをより多くの市民の方に身近に感じてもらうことを目的とする。

２．事業概要

⑴実施期間

令和４年６月２５日（土）8:00-21:00

⑵実施内容

①飲食ブース

場所｜ジャイアントルーム、マエニワ（美術館広場）

内容｜マエニワにはキッチンカー、館内では八戸グランドホテルやHAGISO（東京）が出店するほか、館外からのテイクアウトによる持ち込みも推奨。また、来館者がそれぞれおすすめ飲食店をマッピングすることで、「ジャイアント食マップ」を制作。イベント実施以降も来館者に中心街飲食店を紹介するツールとする。

②メインステージ

場所｜スタジオ

内容｜市民パフォーマーを中心に多様なジャンルのステージを展開。

③カラオケステージ

場所｜ジャイアントルーム

内容｜制作ワークショップ、ジャイアントビンゴ（ビンゴ大会）、カラオケ大会（BeFM協力）、アートファーマーによる建築ツアーを予定。フラットで双方向的な場の創出、コミュニケーションが育む創造性の多様なあり方を示す。

④その他

・館内時報・BGMの制作

3月滞在時に録音。八戸市内の環境音、インフォ・案内員スタッフの声で大谷能生が制作）

・作品展示

市内に点在する、当館収蔵作家の作品を館内に展示する。

・その他、キッズスペース設置、馬場のぼる展紹介、美術館紹介映像上映な　ど

３．事業費

1,236,280円（R3・4年度）

※本事業は、東京藝術大学長島確研究室との共催とし、同研究室は東京藝術大学「I　LOVE YOU」プロジェクト2022からR4制作にかかる費用の助成を受けることとする。

４．参加アーティスト・協力団体等（交渉中含む）

個人・団体名	役割
居間 theater	演出・構成
大谷　能生	音楽監督・出演、館内時報・BGM 制作
森　純平（一般社団法人 PAIR）	インストーラー
土方　大	インストーラー、ワークショップ
冨田　了平	記録映像
加藤　甫	記録写真
きたがわゆう	イラスト
トルホヴォッコ楽団	ステージ出演（音楽ライブ）
小田桐　咲	ステージ出演（カンフー体操）
青森・八戸武術クラブ	ステージ出演（カンフー演舞）
Duo Moonshine	ステージ出演（音楽ライブ）
稲継美保・山崎朋（居間 theater）	ステージ出演（朗読劇）
Jasmine	ステージ出演（ベリーダンス）
pacchi	ステージ出演（アイドルライブ）
アートファーマー	建築ツアーガイド
HAGISO（東京都台東区谷中）	館内飲食出店（焼き菓子）
市内飲食店等	館内飲食出店（軽食）
キッチンカー５～６台	広場飲食出店
BeFM	公開収録協力

※ほか、交渉中の団体等あり

５．アーティストプロフィール

居間 theater［東彩織、稲継美保、宮武亜季、山崎朋］

2013 年から東京谷中にある最小文化複合施設「HAGISO」を拠点に活動をスタート。音楽家や美術家、建築家、空想地図作家、研究者など分野の異なる専門家との共同制作のほか、カフェ、ホテル、区役所、待合室など、既存の〝場〟とそこにある〝ふるまい〟をもとに作品創作をおこなう。現実にある状況とパフォーマンスやフィクションを掛け合わせることで、現実を異化させるような独特の体験型作品をつくり上げている。

大谷能生

八戸市出身。音楽家（サックス・エレクトロニクス・作編曲・トラックメイキング）／批評家（ジャズ史・２０世紀音楽史・音楽理論）。近著に『ニッポンの音楽批評 150 年の 100 冊』（立東舎。栗原裕一郎との共著）。『ジャニ研！ TWENTY TWENTY』（原書房。速水健朗、矢野利裕との共著）などがある。ミュージシャンとしての最新作は『JAZZ MODERNISM』（Blacksmoker Record）。八戸市では、南郷アートプロジェクトでのジャズ講座（2011～13）、八戸ブックセンターの音楽監修などで関わる。

資料３－１１

ジャイアントルーム・広場活用事業について

１．概要

美術館にまだ来たことがない、美術館は敷居が高いと思っている市民向けに、来館のきっかけづくりを行い、美術館を身近なものに感じてもらうことを目的に、美術館の雰囲気づくりや、美術分野以外の内容も含めて賑わい創出につながる取組を行う。

２．内容

（１）ジャイアントルーム活用事業

①ジャイアント食堂

ジャイアントルームに１日限りの大食堂がオープン。広場に出店したキッチンカーで購入した物を飲食しながら、ジャイアントルーム内に作られた「ステージ」で繰り広げられる音楽やダンス、太極拳などのパフォーマンスをお楽しみいただく。

日時：令和４年６月 25 日（土）
企画・構成：居間 theater
音楽監督・出演：大谷能生
イラスト：きたがわゆう

②集客イベントの開催

ゴールデンウィークや夏休み・冬休み期間、シルバーウィークなど市内外からの集客が見込める期間に、ジャイアントルームで音楽ライブやワークショップなど、美術に関心がない方も美術館に来たくなるような多彩なイベントを開催する。

③季節が感じられる美術館の雰囲気づくり

クリスマスや正月など、季節が感じられるような館内装飾を行う。

（２）中心街と連携した賑わいづくり

八戸三社大祭やえんぶり、七夕の時期など中心街で祭りやイベントが開催される際に美術館も連携し、キッチンカー出店やビアガーデンなど、広場を活用した賑わい創出につながる企画を実施する。